

第1回 LRT が走る未来の KOBE を考える座談会 議事要旨

1. 日 時 令和3年8月17日(火) 15時00分～17時04分

2. 場 所 神戸ポートオアシス 503 会議室

3. 議事概要

(1) 開 会

- ・ 資料1「座談会の開催趣旨」について事務局より説明
- ・ 市長挨拶、委員自己紹介

(2) 事務局説明

- ・ 資料2「都心三宮～ウォーターフロントの再整備」、資料3「次世代型路面電車システム LRT (Light Rail Transit) について」について事務局より説明
- ・ 山下座長から富山市の LRT、まちづくりの紹介

(3) 意見交換

- ・ 資料4「都心三宮～ウォーターフロントの主な再開発・ポートループの運行ルート」、「海外の LRT 事例」を活用しながら、「景観の変化・まちなみがどう変わるか」をテーマの中心として意見交換を行った。

(委員の主な発言)

① 現状の課題

- ・ 三宮から新港町までは距離を感じる中、ポートループやコベリンのポートも出来た。しかし、ポートループの運行間隔やコベリンの台数も少ないことから不便。新港町からハーバーランドや元町、三宮へのアクセスに課題を感じる。
- ・ 税関前歩道橋がリニューアルされるのは良い話だが、どうしても国道2号で心理的に大きな分断感がある。
- ・ 夏場、三宮駅からメリケンパークにかけての移動は日影がなく大変。噴水もあり気持ちの良い場所なのにアクセスが課題。ウォーターフロントエリアへの移動手段があれば、もっといろんな場所で遊ぶことができる。
- ・ 神戸の中心地には、鉄道・バス・自転車シェアなど、実は選択肢がいろいろあるがそれぞれの連続性がない。また情報も散らばっており、市民や観光客に上手に伝わっていない。シティループすら知らない市民もいる。
- ・ 歩いて回ってゆっくり楽しめる港町なのに、車が多く神戸のまちの良いところを邪魔している。歩いてゆっくり回ることを LRT がアシストしてくれるのではないか。
- ・ 神戸では再開発が進んでいるが、新神戸や三宮、新港町など飛び飛びで局地的に再開発が行われている感じがある。各エリア間の移動手段が豊富ではないため、LRT などにより各エリア間がつながることによって便利に機敏に回れることが今後のあるべき姿とを感じる。

② 未来の神戸のまちへの期待

- ・ 海外ではトラムが街中に走ることでゆっくりと時間が流れており、未来の神戸のまちの姿を重ねることができる。
- ・ 海外の LRT は、観光客向けというより一般の人が乗るもので、そこに観光客も乗っているイメージ。LRT を含む公共交通乗り放題の制度が普通にある。神戸はライフスタイルが憧れられるまちなので、暮らしの質を高めることが出来れば良い。
- ・ 交通をきっかけとして人の流れが変わり、さらにはまちが変わり、まちをつくろうとする動きでまたまちも変わっていく。LRT が走ることで新たなまちの風景を作っていくことができる。
- ・ 神戸はコンパクトなまちとしてポテンシャルがあり、優雅で精神的に成熟した未来の生活が作れる可能性がある。まちの魅力を引き上げる事例が神戸から発信できると良い。

③ 景観

- ・ ロッテルダムの写真のように都心に溶け合う風景など、LRT は神戸のまちにはとても似合う。景観を意識した色合いや路線であることは重要。
- ・ イタリアの写真のように、架線がないことは景観上とても魅力的。台風などの災害時の安全面でも良い。
- ・ 神戸ならではの景色があるので、車両は LRT を主役にしたデザインよりもまちに溶け込むデザインが望ましい。
- ・ ロッテルダムの写真のように緑が沢山ある路線も良い。神戸の中心街が大きな広場のように感じられる空間にできれば素敵。

④ まちづくり・暮らし

- ・ ベビーカーや車いす、大きな荷物を持った方がそのまま乗れるというゾーンがあると、さまざまな人にとってとても使いやすくなる。海外のように自転車も乗せて移動できると、さらに移動範囲が広がる。
- ・ 観光客など市外から来られる人と接点を持つことで、神戸にある日常の豊かさや自分のまちの価値について市民が気付いていけると良い。
- ・ 大人たちが毎日の暮らしや移動を楽しみ、暮らしの選択肢を広げることが、結果的には子どものためにもなるし、子育てしやすい街を作っていくことにつながる。
- ・ 子どもは移動そのものを楽しんだり、大人が働いている姿や光景を見ていたりする。大人とは感性や視点が違う。子どもたちの視点に立った観点も考えられると良い。
- ・ 車窓から見えるフラワーロードの花1つとっても、すごく豊かな光景。目的地への移動だけではなく、移動そのものの価値を発信していくことも必要。大人も移動を楽しみ、子どもたちとの時間に余裕を持って過ごせられるような提案ができると良い。

⑤ さまざまな移動手段

- ・ 気分や疲労具合に合わせて移動手段を選択できることや、目に入るところに次のモビリティを置くなど、移動手段の選択肢が沢山あるということは大事。
- ・ 路線バスに苦手意識を持つ人もいる中で、LRT や路面電車のようにルールがあることは、ルートや行き先が視覚的に分かりやすく、ダイヤも含めて安心感を生んでいる。
- ・ コロナ禍で仕事や趣味での自転車活用が増えており、自転車に優しいまちなみも求められている。神戸の恵まれたロケーションを活用してLRT&サイクルといった利用も考えられると良い。
- ・ 都心の駐輪場は数が限られており、行きたい場所の近くまで行けないことも多い。海外ではLRTと徒歩や自転車の施策がセットになっている国もある。

⑥ その他

- ・ ポートループ（連節バス）自体が珍しい乗り物。将来もしLRTが走る場合、運行ルート周辺の施設や風景のアナウンスといったガイド要素があれば良い。
- ・ 珍しい乗り物は、乗車自体がアトラクション感覚で楽しい。
- ・ 道路幅員など様々な問題もあると思うが、新神戸や北野、旧居留地、元町、観光を楽しめる六甲ケーブル方面、海が見える須磨などまでLRTが走り移動できる選択肢が増えると、日常生活の中での移動が楽しくなる。
- ・ 時刻表を見て乗るのではなく、ちょうど来たので乗ってみようと思えるような気軽さがあると良い。
- ・ 再開発によって施設が増えると、それらを回遊できるLRTに乗るだけでもすごく楽しいと思う。神戸に来たらまずはLRTに乗って、それから観光プランをどうするか決める、ということも考えられるのではないか。
- ・ 観光利用や日常利用も含め、LRTを含む乗り物、乗り換えが一括で検索できるシステムがあると良い。
- ・ 通常のナビ検索は最速ルートなどで表示されるが、眺めのよいルート優先という機能があっても良い。
- ・ LRTのような移動手段の導入の前段階として、例えばBRT（Bus Rapid Transit：バス高速輸送システム）なども取り入れ、段階的に検討していくと良いのではないか。

(4) 閉 会

以 上